

2019年度 学力向上指導改善プラン

三田市立小野小学校長 久後 幸喜 印

学校教育目標		心豊かにたくましく主体的に学び 人とつながる小野っ子の育成		4月		10～11月		2～3月				
推進主体		管理職、学校教育改革推進委員会を中心とした学力向上委員会		学力向上に向けての重点的な目標 (指標となる数値等)		具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)		中間評価 (今年度の全国学力・学習状況調査、研究の成果などを踏まえての設定目標等の見直し)		年度末評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)		評価
学力に関する前年度の課題・経年の課題												
学力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況 (国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	国語	・少人数授業のよさが活かされており、発表の機会をそれぞれに保障することで自身の考えを示すことが定着してきたが、さらに表現力の育成に注力する必要がある。 ・書くことへの苦手意識を持っている児童が多く、漢字の読み書きや順序良く文章を書くことに課題がある。	・自分の考えを持ち友達との意見交流を深めながら、言語活動を活発化させるとともに、自分の考えを「書く」ことを取り入れた授業の構築を図る。	・全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均正答率を上回る。	・相手や目的、意図に応じて話す順序や構成を工夫し、適切な言葉づかいで話したり、説明したりする能力を高める。 ・漢字の読み書きについて学校と家庭の学習を連携し、毎日の家庭学習を通して学力テストで+10ポイントを目安として定着を図る。 ・授業で教科書を視写する、決まった文字数で要旨をまとめる、毎時間の「ふりかえり」を日常化する等、短い文を書く機会を多く取り入れ、苦手意識を払拭できるようにする。	・少人数授業のよさを活かし、発表の機会を保障することでさらに表現力の育成に注力する。 ・漢字の正答率が全国平均を10.4ポイント上回り、定着が見られた。さらに自分で書いた漢字や書いた文章を見直すなど、読み書きの学習機会を増やしていく。 ・「書くこと」とともに「読むこと」についての苦手意識を払拭しようとする取組の成果が表れている。 「言語についての知識・理解・技能」で課題がある。「辞書引き学習」や漢字の「文づくり」などを効果的に取り入れる。	・少人数授業において、相手や目的、意図に応じて話したり、自分の考えを説明したりするなど、一人ひとりの発表の機会を保障することができた。 ・学力テストの結果からも、学校と家庭学習を通して漢字の定着を図ることができた。来年度に向けても、さらに漢字の読み書きの学習機会を確保していく。 ・「書くこと」とともに「言語についての知識・理解・技能」で課題が残った。効果的な学習方法を検討し、取り入れていく。		B		
		算数 数学	・問題の解き方を説明することや題意を丁寧に把握することが重要視され、図や表といったツールを活用して発表することが定着しつつあるが、正確に情報を読み取ったり、資料を比べたりして説明することに課題がある。 ・計算力の向上について、家庭学習の充実と連動して、少しずつ成果が表れており、本年度は、さらに基礎基本の定着とともに題意に応じた思考・表現の方法を高めていく必要がある。	・自分の考えを持ち、発表したり説明したりする活動を通して友達との意見交流を深めながら、主体的に学ぶことができるような授業の構築を図る。	・全国学力・学習状況調査の平均正答率が全国平均正答率を上回る。	・図を用いて考える機会を多くとり、説明や質問を通して理解を深め、主体的に学ぶことができる授業を展開する。 ・数図ブロックや数え棒、お金(模型)など具体物や半具体物を活用するなどして題意把握を丁寧に、自力解決を促すことで、自ら考えられる授業を展開する。 ・計算について学校と家庭の学習の連携を図り、毎日の家庭学習を通して計算力の向上を目指す。	・「数量や図形についての知識・理解」で課題が見られた。数量や図形感覚を豊かにするため、図や表を活用して発表するなどの活動をより積極的に取り入れる。 ・記述式の問題で平均正答率が高く、全国を5.1ポイント上回った。図を用いて考え、説明や質問を通して理解を深める学習を展開することで、数理的に表現・処理する力、結果から判断する力をのばすことができている。 ・「数と計算」の領域で、式の意味を考えたり、立式したりする問題において課題が見られた。式の意味についての理解を深めるため、何を求めている式といえるのかを、具体物や図、数直線などを用いて考察する活動などを取り入れる。	・図や表を活用して発表するなどの活動をより積極的に取り入れ、説明や質問を通して理解を深め、主体的に学ぶことができる授業を進めることができた。 ・学力テストの記述問題において正答率が高かったことから、数理的に表現・処理する力、結果から判断する力をのばすことができたと考えられる。 ・計算について朝学習と家庭学習を通して計算力の向上を目指したが、まだ「数と計算」領域で課題が見られた。具体物や図などを用いて計算の意味理解を図る。 ・朝学習で習熟の機会をさらに工夫する等の取組を検討していく。		B		
	定期テスト、単元テストなどによる状況 (各教科)	・学習後や帯時間を利用して繰り返し練習問題等に取り組むことで一定の力をつけている。 ・個別の学力差によりよく対応できるように、支援の確立や環境整備を図る必要がある。	・すべての児童が学び合う喜びを感じる授業づくりを進めると共に、個別に対応した補充学習を行っていく。	・個別学習、補充学習等により確実な定着を図る。	・年度初めの学力テストの実施等、学力の把握を全校的に、その結果を授業改善に活かす。 ・朝学習や授業始めに百マス計算や文づくりにとりくむとともに、家庭とも連絡を取って個別の補充学習を実施できるようにする。	・学力テストの実施、学力の把握を行い、その結果を授業改善に活かす取り組みを継続する。 ・朝学習や授業始めに百マス計算や文づくりにとりくむことで一定の成果が表れている。今後は計算や文づくりのプリントの内容を、より児童の実態に合わせ工夫していく。	・全校的に学力の把握を行い、結果を授業改善、教材研究、個別支援等に活かすことができた。来年度も年度初めの学力テストを継続していく。 ・朝学習等の取組は一定の成果が表れている。さらに学習プリントの内容を児童の実態に合わせて工夫していく。		B			
授業等からうかがえる状況 (各教科)	・与えられた課題に粘り強く取り組む力がついてきたが、長文や応用問題に対しては最初からあきらめてしまう傾向がある。 ・児童・保護者アンケートからは、授業中の発表や発言など、表現力について肯定的評価が高まってきており、取組を継続していくことが重要である。	・児童が主体的に学び、一人ひとりの能力が発揮できるよう、さらに授業改善を進める。	・落ち着いた学習でできる環境づくりとともに、児童が取組を通して達成感や充実感を味わうことで学習意欲を高める。	・学級づくりを基盤として授業規律を確立し、とまどうことなく学習に参加できるよう授業の場作りと学習環境を整える。 ・学習の「めあて」と「ふりかえり」を連動させ、児童が学習に向かうよう自分自身の学びや成長を実感する機会をもたせる。	・授業の場作りと学習環境を整える取組について継続して取り組む。 ・学習の「めあて」と「ふりかえり」を大切にして、さらに児童が必然性を感じることができる課題を設定したり、話す・聞く活動の成果を生かす場の設定をしつづけることが必要と考える。	・児童・保護者アンケートの結果でも表現力の評価が高まっている。経年の課題として、さらに学習環境を整える取組を継続する。 ・学習の「めあて」と「ふりかえり」を連動させ、課題設定や、話す・聞く活動の成果を生かす場の設定を工夫することで、児童に達成感や充実感を持たせる活動を仕組むことができていく。		A				
学力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	・朝食、起床時刻、睡眠時間といった生活習慣については、定着が図られてきているが、就寝時刻については、依然として課題が見受けられる。さらなる啓発と取組を進める。 ・算数に関するアンケートから学びの意欲の高まりがうかがえ、本年度もガイドが学習を進める中で主体的に学習しようとする意識を醸成させていく。	・より良い基本的な生活習慣の定着に努め、就寝時刻、ゲームなどの家庭での過ごし方も含めた生活の見直しを図る。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の有効活用を呼びかけ、家庭学習の充実と宿題以外の学習にも取り組んでいくよう家庭との連携を深めていく必要がある。	・基本的な生活習慣の定着の重要性を保護者に発信し、家庭と協力して心身の健やかな成長をはかる。 ・家庭学習の課題について具体例を示し、児童の取組を評価して、家庭での学習習慣の定着を図る。	・学校だより、保健だより、学年通信、家庭訪問、個人懇談などでの発信または相互通信を通して理解と協力を求める。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の有効活用を呼びかけ、家庭学習の習慣化と宿題以外の学習にも取り組んでいくよう家庭との連携を深めていく。 ・学級会などの話し合い活動の充実や、協力し合う活動を通じて考えを深めること、広げることができるように、話し合い活動の意義について継続して指導する。 ・学校司書と連携して図書室の利用を活性化し、朝学習に読書タイムを設定する等、読むことの基礎となる力の向上、読書習慣の定着を図る。	・保護者アンケートの結果、授業参観への出席、学校行事への参加、また、便りや通信を読んでいる等の項目で、引き続き高評価を得られた。今後は本校教育活動へのご理解、ご協力を呼びかけていく。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の活用については、学校だより、学級通信、学級懇談等で呼びかけを継続していく。 ・話し合い活動の充実、学校司書と連携した図書室の利用の活性化、朝学習での読書タイムの設定などの取組で成果が表れている。さらに取組を継続していく。	・授業参観、学校行事への参加、学校だよりや学級通信による情報発信等で、保護者の関心が高まり、朝食、起床時刻、睡眠時間、就寝時刻といった生活習慣について児童・保護者アンケートにおいて高評価が得られた。 ・家庭学習の手引き「がんばれ小野っ子」の活用については、来年度も呼びかけを継続していく。 ・学校司書と連携した図書室利用の活性化、朝学習での読書タイムの設定、隙間読書の呼びかけなどの取組について一定の成果が出た。 ・児童アンケートより、ゲームをする時間を含めた家庭での過ごし方、生活の見直しについて、今後は各家庭と連携した取組が必要である。		A			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	・児童・保護者アンケートから、「読書時間」や「家庭学習の手引き」の活用について、肯定的評価が少なかったことから、さらに啓発する必要がある。 ・安定した学校生活と家庭生活が相関関係になっており、就寝時刻、ゲームなどの家庭での過ごし方も含めた生活の見直しを図り、好循環を生むように取り組んでいく。							B			
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	校内研究の状況	・「主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子の育成～少人数の特性を生かした算数科の学習指導の充実～」をテーマとし、算数科に焦点をあてた研究を進めていく。 ・算数科の研究で焦点化されたガイド学習について、発達段階に応じた力のいれどころなどを明確にし、さらに定着を図っていく。	・教材研究を深め、ねらいを明確にし、児童の主体的な学びにつながるガイド学習の研究を進める。	・目標の達成に向け組織的、計画的に校内研究を進める。	・一人一授業公開を原則として授業研究に取り組み、事前・事後研を通して授業の改善、支援の共有を図る。 ・授業実践記録をまとめて交流し、よい実践のポイントを明らかにし、共有していく。	・「主体的に学習に取り組む、自分の考えを表現できる子」をテーマとした算数科教育の研究の成果が表れている。とくに、題意把握を丁寧に、自ら考えられる授業を展開することを通して、資料を読み取る力が定着してきている。		A				
	校内研修の状況	・各評価及びアンケートの分析結果から次への取り組みを考察し、実行していくというサイクルをさらに充実させていく。 ・小規模化・複式学級化する本校の課題解決につながるよう、研修のねらいを明確にして設定する。	・PDCAサイクルを全職員で共有し、学期ごとの取り組みを進める。	・具体的な目標を設定し、達成に向け組織的、計画的に進める。	・教育計画を中心に評価・共通理解を進めながら、ガイド学習、緊急時の対応、児童理解等について研修を行い、今日的課題に対応すべく取組を進める。	・今日的課題として、ガイド学習についての研修等も含め、さらに学級の複式化に対応していくための研修が必要である。		B				
家 庭 ・ 校 間 連 携	家庭・地域等の状況	・保護者や地域の本校に対する支援・協力体制は大変心強い。さらに通学の安全面での取組が教育活動全般において必要である。 ・三田市の「学校のあり方協議会」の方針等もふまえながら、学校と地域の協働体制をさらに構築していく必要がある。	・家庭・地域への積極的な情報発信と連携をさらに進める。	・学校だより、学年通信、その他の通信で情報を広く発信する。	・学校地域運営協議会を中心として学校関係者(区長、地域の関係者・組織等)と考えを共有し、連携した取り組みを進める。	・学校地域運営協議会を中心として学校関係者(区長、地域の関係者・組織等)と考えを共有し、連携した取り組みを継続する。	・家庭、地域への情報発信と、その連携をさらに進める。 ・学校地域運営協議会、学校関係者と連携し、小規模校の特色を生かした保護者、地域の支援・協力体制づくりを進めていく。		A			
	小・中における教科連携等の状況	・授業参観も含め、教科として身につけておきたい力(知・技)に視点をのいた連携を進めていく。 ・連携担当者や長期休業中の小中合同研修の実施等を今後も継続し、連携を推進していく必要がある。	・これまでの四校交流会の取組を大切にし、共通した学習規律の策定に向けた小中学校間の連携を深める。	・交流会、連絡会、担当者会等の定期的な開催をめざす。	・中学校と校下4校相互の授業参観、合同研修会を通じて情報を交換し、小中連携の内容をより深め、活性化させる。	・学力テストの結果を踏まえ、中学校校区での合同分析を行い、小中連携の内容をより深める。	・授業参観、合同研修、四校交流を通して小中連携を深めることができた。 ・連絡会や研修会、交流会の持ち方についてはより良い内容を検討していく。		B			